

2025年度 小倉東篠崎教会 CHURCH COLLEGE IV-2

「いのちと文学—日本近代文学とキリスト教」

文学に おける 沈黙の問題

—夏目漱石と遠藤周作を巡って



2025年10月18日(土)午後2時~4時

松本 常彦 TSUNEHIKO MATSUMOTO 先生
(九州大学名誉教授、国際芥川龍之介学会 ISAS 会長)

【講演概要】 人生には、沈黙が同伴者になるところがあります。その性格もさまざまです。たとえば「沈黙は金」は、苦にならないどころか、人生の苦勞を軽くしてくれたりもします。同伴の時間や距離もさまざまです。「墓場まで持って行く」沈黙は、命尽きるまでの併走です。平気な人もいれば、苦しい人もいます。こらえ切れずに沈黙を破って楽になる場合もあれば、逆にいっそう辛くなる場合もある。ほとんどの人が、我がこととして沈黙を体験します。ただ、年齢や性別や時代や社会に応じて、また、個人的な性格や状況に応じて、さまざまな変化も生じます。大人になった今、なぜあんな沈黙を抱えたらうと思うこともあります。

沈黙は、黙秘権、懺悔、黙示法など、法律、宗教、芸術以外にも、多くの場で問題になります。その根っこには、言葉秘すだけに、逆に、多くのことを考えさせる沈黙の働きがあります。文学の場でも「沈黙は金」です。ただ、文学は、それを言葉のシャベルで掘り起こさないといけません。その代表的な実践を夏目漱石と遠藤周作の仕事に見てみたいと思います。この講演が、われわれもまた、さまざまな人のさまざまな沈黙の中で生きていることを考える時間になればと願っています。

【プロフィール】 1959年生れ。九州大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学後、筑紫女学園短期大学講師、北九州市立大学教授、九州大学大学院比較社会文化研究院教授を経て九州大学名誉教授。国際芥川龍之介学会 ISAS 会長、松本清張研究会理事。編著に『学海日録』(岩波書店)、『明治実録集』(岩波書店)、『鹿児島戦争記』(岩波文庫)、『新修福岡市史民俗編』(福岡市)など。その他「資料紹介・中島利一郎宛松本清張書簡(続)」(「松本清張研究」2025年3月)、「講演録・光る国へ」(九州大学「語文研究」2024年12月)、「遠藤周作「海と毒薬」の問題」(「敍説」2023年10月)など多数。

「いのちと文学」今後の予定

Part3:26年10月17日(土)14時
奥野政元先生(活水女子大学名誉教授)

「受難の恵み—漱石文芸の世界」

※日程は変更することがございます。

参加無料

どなたでもどうぞ!!

メール又は電話にて、
10月15日(水)
までにお申込みください。

日本キリスト教団 **小倉東篠崎教会**

北九州市小倉北区東篠崎 1-2-13

Tel&Fax: 093-951-7199 Mail: hp@higashishinozaki-ch.jp

小倉駅からモルレル乗換、片野駅下車、徒歩2分。